



北海道別海町におけるオオキアシシギの秋季観察記録

品田 済*

〒043-1403 北海道奥尻郡奥尻町字球浦 21 6 共 A 奥尻出張所公宅 101 号室

オオキアシシギ *Tringa melanoleuca* はチドリ目 Charadriiformes シギ科 Scolopacidae のクサシギ *Tringa* 属に属するシギ類で（日本鳥学会 2024）、北米大陸のアラスカ州東部からニューファンドランド島にかけてのタイガで繁殖し、非繁殖期は主にブリティッシュコロンビア州南部及びコネチカット州南部以南の海沿い、並びに中南米及び西インド諸島の全域へ渡って越冬する（Michael *et al.* 2006）。我が国における本種の記録は、1964 年 8 月に宮城県仙台市の蒲生海岸で観察された記録が最も古い（日本野鳥の会 1964）。日本鳥学会（2024）によると、本種は北海道、本州（宮城、茨城、千葉、埼玉、神奈川、愛知、石川、三重、奈良、岡山、広島、山口）、四国（香川、徳島）、沖縄県から迷鳥として記録されている。今回、著者は 2023 年 11 月の北海道東部地域において、オオキアシシギと考えられる個体を観察したので、本個体の形態や観察状況について報告する。くわえて文献上の記録を精査し、本種のこれまでの国内の記録をまとめた（表 1）。本件は北海道で写真のある記録としては 2 例目、かつ本種の記録としては我が国で最北の記録である。

観察記録

著者は 2023 年 11 月 12 日に北海道別海町野付の野付半島南側に位置する干潟（43° 33′ 7″ N, 145° 18′ 31″ E）でアオアシシギ *Tringa nebularia* 2 羽とともに行動する本種 1 羽を発

見し、2023 年 11 月 21 日まで断続的に観察した。全観察日数は 5 日であった。

本個体を発見した場所は野付半島の先端部で、イネ科 Poaceae 植物が優先する塩湿地に面した干潟であった。野付半島は根室海峡に突き出た半島で、砂が堆積して出来た砂嘴である。野付半島に囲われた野付湾には当幌川、飛雁川などの河川が注ぎ汽水域となっており、厳冬期には水面が凍結する。発見日の 11 月 12 日から終認日の 11 月 21 日まで、干潟が凍結することはなかった。

発見時は 50 m ほどの距離から 10 倍の双眼鏡で観察し、500 mm の単焦点レンズを一眼レフカメラに装着し撮影した（図 1）。

本個体は行動をともにしていたアオアシシギと同程度の大きさで、体形はアオアシシギと同様に脚が長く、嘴は細長かった（図 2）。羽色は、頭部から背面にかけて灰褐色で、肩羽は濃い灰褐色で羽縁に白斑が入った羽の他に、冬羽と思われる薄い灰褐色で羽縁に濃い灰褐色の斑が入った羽が見られた。喉、胸は薄い灰褐色で、腹は白く、脇に薄い灰褐色の横斑が見られた。翼上面は全体として濃い灰褐色で、雨覆および三列風切羽には羽縁から羽軸方向に明瞭で大きな白色の切れ込み模様が並んでいた。初列風切羽は黒色で、静止時に尾羽から先に突出していた。嘴はやや上に反っており色は黒く、基部は淡色で黄色がかっていた。脚は鮮やかな黄土色だった。翼を広げた際に腰部のみが白色であり、

2026 年 2 月 8 日 受理

キーワード： *Tringa melanoleuca*, オオキアシシギ, 北海道

*: tokkaidoo@gmail.com

表 1. 我が国におけるオオキアシシギ *Tringa melanoleuca* の観察記録一覧.Table 1. Records of the Greater Yellowleg *Tringa melanoleuca* in Japan.

記録 No.	記録年月日	都道府県	地名	環境	個体数	観察者	状況	出典等
1	1964.8.30	宮城県	仙台市 蒲生海岸	干潟	1	竹丸勝朗	観察・撮影	日本野鳥の 会編集部 (1964)
2*	1974.10.11	香川県	観音寺市 姫浜					香川野鳥の会 (1977)
3*	1975.8	北海道	根室市 春国岱	干潟	1	日比彰	観察	高田 (1991)
4	1975.8.30	石川県	金沢市 大浜		1	中川富男	観察・撮影	石川県 (1977), 石 川県 (1998) 矢田新平 (私 信)
5	1982.12.28 -1983.4.2	広島県	福山市 藤井川 河口	河口	1	市川昭二, 西本悟郎 ほか	観察・撮影	日本野鳥の会 広島県支部 (2002), 西 本悟郎私信
6	1983.10.30	愛知県	豊橋市 汐川干潟	干潟	1	鈴木章弘 ほか	観察・撮影	日本野鳥の会 野鳥記録委員 会 (1986) 叶内拓哉 (2014)
7	1983.11.5 -1984.1.1	沖縄県	浦添市 キャンプ キンザー	干潟	1	McWhirter 池長裕史, 金 田昌士	観察・撮影	日本野鳥の 会編集部 (1985) McWhirter ら (1996)
8*	1992.5.1	山口県	阿知須町		1	城山登	観察	小林ら (2017)
9*	1992.9.28	神奈川	川崎市 多摩川 河口	河口	1	斉藤一郎, 小松原唱 二ほか	観察	日本野鳥の会 神奈川支部 (2002)
10	1992.11.4	岡山県	岡山市 藤田錦 六区	農耕地	1	斉木 孝	観察・撮影	日本野鳥の会 岡山県支部 (1993) 大西敏一 (私 信)
11*	1996.8.26	茨城県	波崎町 (現 神栖市) 波 崎港付近	砂浜	1	入山博ほ か	観察・撮影	明日香 (1997)
12	1996.11.3 -6	埼玉県	戸田市 彩湖	湖の岸	1	蛭原美夫, 有山智樹	観察・撮影	日本野鳥の会 野鳥記録検討 会 (1998)
13	2003.12.20	徳島県	鳴門市 大津町	農耕地	1	天羽敬郎	観察・撮影	柴折 (2004)
14	2004.1.11 -5.7	茨城県	桜川村 (現 稲敷市) 浮島	農耕地	1	鈴木紀雄 ほか	観察・撮影	明日香 (2004), 真 木ら (2014)
15	2016.1.13	北海道中 部	伊達市 長流川 河口	河口	1	篠原盛雄	観察・撮影	北海道野鳥愛 護会広報部 (2016)

続き
Cont.

記録 No.	記録年月日	都道府県	地名	環境	個体数	観察者	状況	出典等
16	2019.9.20 -10.1	千葉県	(場所秘匿)	農耕地	1	村井誠司	観察・撮影	志村 (2019)
17	2019.10.18	奈良県	奈良市 池田町	池の岸	1	揉井千代 子 吉川康雄 ほか	観察・撮影	日本野鳥の 会奈良支部 (2020)
18	2023.11.12 -21	北海道東 部	別海町 野付半島	干潟	1	品田済	観察・撮影	本記録

記録 No. に * が付いた記録については、識別の根拠となる写真の確認に至らなかった。



図 1. 北海道別海町で観察されたオオキアシシギ. 2023 年 11 月 12 日. 撮影: 品田済.

Fig. 1. Greater Yellowlegs observed in Betsukai-cho, Hokkaido. Photographed by W. Shinada on 12 November 2023.



図 2. 北海道別海町で観察されたオオキアシシギとアオアシシギ. 2023 年 11 月 12 日. 撮影: 品田済.

Fig. 2. Greater Yellowlegs and Common Greenshank observed in Betsukai-cho, Hokkaido. Photographed by W. Shinada on 12 November 2023.



図 3. 北海道別海町で観察されたオオキアシシギの飛翔姿。2023 年 11 月 12 日。撮影：品田済。

Fig. 3. A Greater Yellowleg in flight observed in Betsukai-cho, Hokkaido. Photographed by W. Shinada on 12 November 2023.

背中は濃い灰褐色であることが確認できた（図 3）。

本個体は、観察されたいずれの日も発見地点付近の干潟で観察された。採餌行動を行い、潮溜まりで小魚を捕食する様子が観察された。警戒心はやや強く、車が通過する度に尾を上げ下げする警戒行動が見られた。

考察

先述した形態的特徴を持つ種について検討すると、本個体はその体型からシギ科 Scolopacidae のオグロシギ属 *Limosa*、オオハシシギ属 *Limnodromus*、イソシギ属 *Actitis*、およびクサシギ属 *Tringa* の一種であると考えられるが、オグロシギ属、オオハシシギ属、イソシギ属は嘴の色と長さが異なるため除外した。このうち腰が白い種は本種の他にクサシギ属のアオアシシギ、コアオアシシギ *T. stagnatilis*、クサシギ *T. ochropus*、タカブシギ *T. glareola* およびコキアシシギ *T. flavipes* に限定されるが、アオアシシギとコアオアシシギは腰から背中にかけて白色部が深く食い込むことから除外される。クサシギ、タカブシギおよびコキアシシギ

とは本種の体の大きさがより大きいことにより識別できる（氏原ら 2004）。以上の点から本個体をオオキアシシギと同定した。

本種の成鳥冬羽は雨覆と三列風切羽に細かい黒と白の斑が交互に見られ、第一回冬羽は成鳥冬羽に比べ雨覆と三列風切羽に大きな白斑が見られることが知られている（Chandler 2009）。本個体は雨覆と三列風切羽に明瞭で大きな白斑が見られたことから第一回冬羽であると考えられた。

謝辞

本稿作成に際して、（公財）日本野鳥の会広報室より貴重な文献を提供いただいた。矢田新平氏、西本悟郎氏ならびに大西敏一氏には過去の記録について情報を頂いた。先崎理之氏より文献の紹介と年齢識別についてのご助言をいただいた。また匿名の 2 名の査読者には有用なご助言と参考資料の提示を頂いた。この場を借りて感謝申し上げる。

引用文献

- 明日香治彦. 1997. 波崎小見川探鳥会のお詫びと訂正. ひばり(215): 17.
 明日香治彦. 2004. オオキアシシギの観察記録. ひば

- り(260): 23.
- Chandler, R. 2009. Shorebirds of North America-Europe and Asia: A Photographic guide. Princeton University Press, New Jersey.
- 北海道野鳥愛護会広報部. 2016. オオキアシシギの観察記録. 北海道野鳥だより (184): 6.
- 石川県. 1977. 石川県の自然環境 第3分冊 鳥獣. 石川県, 金沢.
- 石川県. 1998. 石川県の鳥類. 石川県環境安全部自然保護課. 金沢.
- 叶内拓哉. 2014. 山溪ハンディ図鑑7 新版 日本の野鳥. 山と溪谷社, 東京.
- 小林繁樹・原田量介・山根和親・開作秀敏・村本和之・立野昌宏・弘津聖也. 2017. 山口県産鳥類目録2017. 山口野鳥 (48): 69-111.
- 香川野鳥の会. 1977. 香川県鳥類目録A list of Aves in Kagawa 1977.11.20. 香川野鳥の会, 香川.
- 真木広造・大西敏一・五百澤日丸. 2014. 決定版日本の野鳥650. 平凡社, 東京.
- McWhirter, D. W.・池長裕史・五百澤日丸・庄山守・高原健二. 1996. A Check-list of the birds of Okinawa Prefecture with notes on recent status including hypothetical records (最近の生息状況と参考記録を含めた沖縄県産鳥類目録). 沖縄県立博物館紀要 (22): 33-152.
- 日本鳥学会. 2024. 日本鳥類目録 改訂第8版. 日本鳥学会, 東京.
- 日本野鳥の会編集部. 1964. オオキアシシギとゲンカンドリ. 野鳥29(5): 16-17.
- 日本野鳥の会編集部. 1985. フィールドノート 野鳥情報観察記録. 野鳥 50(5):38-39.
- 日本野鳥の会広島県支部. 2002. ひろしま野鳥図鑑増補改訂版. 中国新聞社, 広島市.
- 日本野鳥の会神奈川支部. 2002. 20世紀の神奈川の鳥—神奈川県鳥類目録IV—. 日本野鳥の会神奈川支部, 横浜市.
- 日本野鳥の会野鳥記録委員会. 1986. 野鳥情報・観察記録 1984.9-1986.7. Strix 5: 89-98.
- 日本野鳥の会野鳥記録検討会. 1998. 野鳥情報・観察記録 1996.8-1997.2. Strix 16: 177-183.
- 日本野鳥の会奈良支部. 2020. 会員の鳥記録 2019年8月～11月. いかる(168): 13.
- 日本野鳥の会岡山県支部. 1993. 鳥信. 野鳥おかやま (75): 9.
- O'Brien, M., Crossley, R. & Karlson, K. 2006. The shorebird guide. Houghton Mifflin Company. Boston, USA.
- 柴折史昭. 2004. 初記録!! オオキアシシギ *Tringa melanoleuca*. 野鳥徳島 (305): 7.
- 志村英雄. 2019. 自然教室 シギ・チドリの観察を再開 デジタル画像で識別点を読み取る② オオキアシシギの千葉県内初記録の報告など. ほおじろ (463): 3-4.
- 氏原巨雄・氏原道昭. 2004. シギ・チドリ類ハンドブック. 文一総合出版, 東京.

Record of a Greater Yellowlegs *Tringa melanoleuca* in Betsukai-cho, Hokkaido

Wataru Shinada*

6 Tomo A Okushirisyuttyouzyokoutaku101, Azatamaura21, Okushiri-cho, Okushirigun,
Hokkaido, 043-1403, Japan

A Greater Yellowleg *Tringa melanoleuca* was observed in Betsukai-cho, Hokkaido, from 12 to 21 November 2023. This represents the second record for Hokkaido and the northernmost record of the species in Japan.

Keyword : *Tringa melanoleuca*, *Greater Yellowlegs*, *Hokkaido*

*: tokkaidoo@gmail.com